

高等教育機関 関係者各位

(SPOD事務局)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課

平成29年度「次世代リーダー養成ゼミナール」の実施について（通知）

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」では、四国内大学等の事務職員の資質向上を目標に、加盟校の多数の皆様にご参画いただき、SDにおける協働の取組を進めているところです。

このたび、標記ゼミナールを下記のとおり実施いたします。本ゼミナールについては、従来SPOD加盟校の職員のみを受講対象としていましたが、今年度よりSPOD加盟校外の職員にも開放しますのでお知らせいたします。

つきましては、貴学において受講希望者がございましたら、別紙受講推薦書にスタッフ・ポートフォリオ及び受講にあたっての抱負（2,000字程度で様式は問いません）を添えて、4月24日（月）までに下記メールアドレス宛に御提出いただきますようお願いいたします。

なお、標記ゼミナールのプレプログラムとして、「スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催します。平成29年度次世代リーダー養成ゼミナール受講生（8期生）については、本ワークショップの受講が必要となりますので申し添えます。

記

日 時	第1回	平成29年	6月 1日（木）～ 3日（土）（愛媛大学）
	第2回	平成29年	7月20日（木）～22日（土）（高知大学）
	第3回	平成29年	10月26日（木）～28日（土）（香川大学）
	第4回	平成30年	1月18日（木）～19日（金）（愛媛大学）

（※詳細は、別紙「平成29年度次世代リーダー養成ゼミナール実施要項」のとおり）

申込先 愛媛大学教育学生支援部教育企画課教育企画チーム

E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

※プレプログラム「スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ」（平成29年5月19日（金）愛媛大学開催）の詳細については、受講者決定通知時にお知らせします。

【担当】

愛媛大学教育学生支援部教育企画課
教育企画チーム SD担当

TEL 089-927-9154

FAX 089-927-8100

平成29年度次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目 的

将来、所属大学でのトップリーダーや高等教育界のリーダーとして大学等の経営を担うために必要な知識、技能、態度を身につけた人材を養成する。

2. 到達目標

【知識】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・ 高等教育に関する理論・知識を応用することができる。
- ・ 経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する理論・知識を応用することができる。
- ・ リーダーシップに関する理論・知識を応用することができる。

【技能】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・ 情報収集・分析を行うことができる。
- ・ 企画策定・提案を行うことができる。
- ・ 判断を行うことができる。
- ・ 折衝・調整を行うことができる。
- ・ 後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・ 学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・ 立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・ 地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・ リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※本ゼミナールの詳細については、別紙1「次世代リーダー養成ゼミナール概要」及び別紙2「次世代リーダー養成ゼミナール科目一覧」をご参照ください。

3. 開催日

(第1回) 平成29年 6月 1日(木)～ 3日(土)(愛媛大学)

(第2回) 平成29年 7月20日(木)～22日(土)(高知大学)

(第3回) 平成29年10月26日(木)～28日(土)(香川大学)

(第4回) 平成30年 1月18日(木)～19日(金)(愛媛大学)

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

※本ゼミナールのプレプログラムとして「スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ」を平成29年5月19日(金)に愛媛大学にて実施する。

4. 場 所

(第1回) 愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ3階(愛媛県松山市文京町3)

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。ただし、定員に達していない場合は、SPOD加盟校外の職員を受け入れることができる。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ※別紙3「スタッフ・ポートフォリオ記入例」をご参照ください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（2,000字程度）で提出できる者。
- ・SPOD研修プログラムのレベルⅡ程度を修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な者を推薦してください。

6. 募集人員

12名

- ・各機関より複数受講を希望する場合は、優先順位を付す。
- ・SPOD加盟校外の職員の推薦は、1機関あたり2名までとする。

7. 研修料

SPOD加盟校の職員は無料。SPOD加盟校外の職員は別に定める研修料が必要になります。

8. 講師

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	副室長・教授	中井俊樹
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	愛媛大学SD統括コーディネーター	吉田一恵

外部講師（予定）（所属及び職名は、平成29年3月1日現在）

桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科	教授	山本眞一
京都外国語大学総合企画室	次長	山崎その
名古屋大学高等教育研究センター	准教授	中島英博
福岡大学教育開発支援機構	講師	橋場 論

9. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）を完遂し、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※SPOD加盟校の職員は、修了後にSPODのSD講師に登録すること。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

平成29年度次世代リーダー養成ゼミナール（第1回）日程表

日時：6月1日（木）～3日（土）

場所：愛媛大学

時間	（1日目）6／1（木）		（2日目）6／2（金）		（3日目）6／3（土）		時間
	7期生	8期生	7期生	8期生	7期生	8期生	
9:00							9:00
			SD実践Ⅰ （プログラム構築） 清水・吉田	研究方法論Ⅰ （課題発見と解決） 丸山	SD論 京都外国語大学総合企画室 次長 山崎 その		
			メンタリング実践Ⅰ （7期生が8期生へメンタリング） 清水				
			昼食			昼食	
10:30							10:30
12:00							12:00
13:00	開講式		研究方法論Ⅲ （調査票の作成） 清水	高等教育論 中井	インストラクション・スキルⅠ （プレゼンスキル） 自大学プレゼン発表 清水・丸山・吉田		13:00
13:30	次世代リーダー養成ゼミナール 受講にあたって （8期生より決意表明）	13:30					
14:00	SD実践Ⅰ （プログラム構築） 清水・吉田	リーダー シップ論Ⅰ 丸山	研究方法論Ⅳ （データ分析基礎） 清水		プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導） 清水・丸山		14:00
15:00							15:00
16:00	SD実践Ⅱ （マイクロ ティーチング） 清水・丸山・吉田	インストラクション・ スキルⅠ （プレゼンスキル） 吉田	プロジェクト実践Ⅱ （7期生による進捗状況発表） 清水・丸山・吉田				16:00
17:30	振り返り						17:30
18:00			19:00頃 情報交換会				18:00

次世代リーダー養成ゼミナール概要

本ゼミナールは、「講義」「プロジェクト」「SD実践・演習」を3つの柱とし、2年間で8回、段階的・体系的・継続的に実施する。

＜目 的＞ 将来、所属大学でのトップリーダーや高等教育界のリーダーとして大学等の経営を担うために必要な知識、技能、態度を身につけた人材を養成する。

	概 要	1回（6月）	2回（7月）	3回（10月）	4回（1月）	5回（5月）	6回（7月）	8月末 ～9月	7回（10月）	8回（1月）
講 義	「基礎科目」「高等教育」「経営戦略」「人材育成」に関する分野の受講を通じて、自大学等の政策立案・運営に応用する理論・知識を学びます。	【基礎科目】 研究方法論Ⅰ（課題発見と解決） 研究方法論Ⅱ（文献検索・調査法） 研究方法論Ⅲ（調査票の作成） 研究方法論Ⅳ（データ分析基礎） 研究方法論Ⅴ（レポートの書き方）				【高等教育分野】 高等教育政策論 高等教育史 高等教育論 教育関係法規 学生支援論		【経営戦略分野】 高等教育戦略論 経営管理・戦略論 大学のガバナンスとマネジメント 高等教育におけるIR 危機管理実践 人事政策論		【人材育成分野】 SD論 リーダーシップ論Ⅰ リーダーシップ論Ⅱ 大学職員論 メンター入門 人材育成ビジョン
プロジェクト	自身の関心に基づいて課題を設定し、所属大学内での課題解決のためのプロジェクトを企画・運営し、その実践の中で得られた知見をアクションリサーチの形でレポートとしてまとめます。	プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）	プロジェクト・マネジメント プロジェクト実践Ⅰ（課題設定）	プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導） ※プロジェクト実践Ⅰ（課題設定）	プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）	プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導） プロジェクト実践Ⅱ（進捗）	プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）	プロジェクト終了（9月末）	プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）	プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導） プロジェクト実践Ⅲ（修了）
SD実践・演習	次世代を担うリーダーとして、立場の異なる構成員と協働する力、地域や高等教育界のニーズに応えられる力などを実践と演習を通じて身につけるとともに、他者を育成する力を修得します。	メンタリング実践Ⅰ ※メンタリング実践Ⅰ （インストラクション・スキルⅠ）	インストラクション・スキルⅡ （インストラクション・スキルⅡ）	メンタリング実践Ⅱ ※メンタリング実践Ⅱ	SD実践Ⅰ（プログラム構築）	メンタリング実践Ⅰ ※メンタリング実践Ⅰ SD実践Ⅰ（プログラム構築） ※マイクロ・プログラム構築	SD実践Ⅰ（プログラム構築）		メンタリング実践Ⅱ ※メンタリング実践Ⅱ SD実践Ⅲ（プログラム振り返り） SD実践Ⅱ（プログラム振り返り）	インストラクション・スキルⅡ ※インストラクション・スキルⅡ
課 題	■受講申込時提出物 ・スタッフ・ポートフォリオ（SP） ・受講にあたっての抱負	■第1回までの課題 ・SPワークショップ参加 ・受講にあたっての抱負発表準備 ・自大学プレゼン発表準備 ※課題の詳細は、受講決定後にお知らせいたします。	■第2回までの課題 ・講義レポート ・プロジェクト題材3つ考えプレゼン準備 ・SP更新	■第3回までの課題 ・講義レポート ・プロジェクトの決定・憲章作成 ・プロジェクト発表準備 ・大学改革13項目レポート	■第4回までの課題 ・講義レポート ・研修プログラム検討 ・SP更新	■第5回までの課題 ・講義レポート ・プロジェクト進捗報告作成 ・プロジェクト進捗発表準備 ・研修プログラム検討	■第6回までの課題 ・講義レポート ・プロジェクト進捗報告作成 ・研修プログラム準備		■第7回までの課題 ・講義レポート ・プロジェクト実践レポート作成 ・研修プログラム実践準備	■第8回までの課題 ・講義レポート ・プロジェクト実践レポート作成 ・修了プレゼン準備 ・講師ができるシラバス提出 ■修了後提出物 ・シラバス（更新） ・プロジェクト実践レポート（最終） ・SP（更新）

次世代リーダー養成ゼミナール科目一覧

次世代リーダー養成ゼミナールの目指すもの					将来、所属大学でのトップリーダーや高等教育界のリーダーとして大学等の経営を担うために必要な知識、技能、態度を身につけた人材を養成する。											
到達目標					(知識) 1. 高等教育に関する理論・知識を応用することができる 2. 経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する理論・知識を応用することができる 3. リーダーシップに関する理論・知識を応用することができる (技能) 4. 情報収集・分析を行うことができる 5. 企画策定・提案を行うことができる 6. 判断を行うことができる 7. 折衝・調整を行うことができる 8. 後継者育成を行うことができる (態度) 9. 学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる 10. 立場の違う構成員と協力して働くことができる 11. 地域や高等教育界のニーズに応えることができる 12. リーダーとしてふさわしい言動をとることができる											
科目名					講師	時間	開講年度			研修の目的 (この受講科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (この授業科目の学習後に到達すべき目標を、ゼミ生を主語にして、行為動詞を使用して箇条書きに記入)					
							1年目	2年目	隔年							
講義	基礎科目	1	研究方法論Ⅰ (課題発見と解決)	丸山	1.5	○				プロジェクトを選択する上で、必要とされる課題発見の方法およびその解決方法についての基本を理解する。	1. 課題発見のためのスキルを説明することができる 2. 課題解決の手法を理解することができる 3. 課題解決型プロジェクトのテーマ策定に活用することができる					
		2	研究方法論Ⅱ (文献検索・調査法)	(清水)	1.5	○				プロジェクトの実践や修了レポートをまとめる際に参考となる文献などの検索方法について理解する。	1. 文献検索の方法を説明することができる 2. 必要な文献を検索し、入手することができる 3. 他の図書館から資料を借り入れる方法を説明することができる					
		3	研究方法論Ⅲ (調査票の作成)	清水	1.5	○				アンケート調査とはどのような調査であるのかを理解し、その作成方法を学ぶ。	1. アンケート調査とは何かを自分のことばで説明することができる 2. アンケート調査の作成方法を説明することができる 3. アンケート調査票を作成することができる					
		4	研究方法論Ⅳ (データ分析基礎)	清水	1.5			○		プロジェクトや日常業務で活用できるデータ分析の基本的な内容を学ぶ。	1. データの種類を説明することができる 2. データ分析の方法を説明することができる 3. グラフの種類と特徴を説明することができる					
		5	研究方法論Ⅴ (レポートの書き方)	清水	1.5			○		レポートの構成の立て方、引用方法などのレポートを書く際の基本的な事項を理解する。	1. レポートの基本とは何かを説明することができる 2. 剽窃について説明することができる 3. 構成の立て方を説明することができる					
	高等教育分野	6	高等教育政策論	山本	3	○				大学を取り巻く様々な政策を理解し、大学改革において必要とされるマネジメント力を発揮できるようになるための基礎を養う。	1. 1990年代以降の大学改革について説明することができる 2. 我が国の大学の特質を説明することができる 3. 大学を巡る諸環境の変化を説明することができる					
		7	高等教育史	大津	3				○	日本の高等教育の歴史とポイントを理解し、現在の様々な大学の改革や取組への繋がりを理解する。	1. 高等教育機関の現状を説明することができる 2. 日本の大学改革の歴史の概要を説明することができる					
		8	高等教育論	中井	3	○				制度・組織を中心とした高等教育に関わる基本的な内容を取り上げる。	1. 高等教育に関する基本的な理論や枠組みを説明することができる 2. 大学教育に関する基本的な理論や枠組みを説明することができる 3. 所属機関における課題を理論や枠組みに照らし合わせて説明することができる					
		9	教育関係法規	橋場	3				○	我が国の学校教育関係法規(主に憲法、教育基本法、学校教育法、大学設置基準等)の基本的事項について、理解するとともに、高等教育政策の動向について正しく理解し、課題解決のための方策を提案できる。	1. 我が国の学校教育関係法規の制度概要、論点等が説明することができる 2. 業務に必要な高等教育制度の変遷や法令について説明することができる 3. 高等教育政策の動向について説明することができる 4. 現在の大学行政上の課題を基に方策を具体的に提案することができる					
		10	学生支援論	清水	3				○	学生支援の歴史的変遷の概略を学ぶとともに、現代の高等教育において必要とされる学生支援の現状と課題を考える。	1. 学生支援の現状について説明することができる 2. 学生支援の問題点について指摘することができる 3. 所属大学での学生支援の在り方について自分の考えを述べることができる					
	経営戦略分野	11	高等教育戦略論	池田	3				○	学部・研究科集合体を前提とした大学経営の現状において、社会に求められる「戦略マネジメント」の体制構築の方法について学ぶ。	1. 戦略プランの必要性を述べることができる 2. 戦略マップの有効性を説明することができる 3. 戦略アーキテクチャーを作成することができる 4. 戦略を管理することができる 5. 大学経営の中・長期計画に参画することができる					
		12	経営管理・戦略論	秦	3				○	高等教育経営に関する様々な分野を取り上げ、経営管理や組織のあり方、経営戦略などについて専門的に学ぶ。学習にあたっては、理論だけでなく、ケーススタディなどの手法も取り入れ、実践的側面についても理解を深めていく。	1. 経営戦略について説明することができる 2. 高等教育経営を効果的に実践するためのマネジメント手法を説明することができる 3. 高等教育経営に関する様々な分野の情報を収集・分析し、経営戦略の策定ができる					
		13	大学のガバナンスとマネジメント	中島	3				○	ガバナンスとマネジメントの違いを理解し、戦略遂行のために自らに与えられた課題を解決する能力を養う。	1. ガバナンスとマネジメントについて説明することができる 2. 大学のガバナンスとマネジメントについて説明することができる 3. 大学改革におけるガバナンスとマネジメントの役割について説明することができる					
		14	高等教育におけるIR	中井	3				○	高等教育における計画立案、政策形成、意思決定を支援するために、データに基づく持続的な改善・意思決定(IR)を効果的・効率的に行うための問題解決方法を養う。	1. 高等教育質保証について説明することができる 2. Institutional Research(IR)について説明することができる 3. 諸外国におけるIRの展開について述べることができる 4. 日本におけるIRの展開について述べることができる 5. 課題を洗い出し、課題解決に取り組むことができる					
		15	危機管理実践	吉田	3				○	大学職員に求められる権利・義務を理解した上で、事件・事故等の対処方法・予防策の構築方法を学ぶ。	1. 大学等における危機管理とは何かについて説明することができる 2. 事件・事故等に自ら判断を行い、対処することができる 3. 事件・事故等の予防策を構築することができる					
		16	人事政策論	各務	3				○	人事政策について理解し、職員に求められる能力や資質等、そのために必要なSDについても理解を深めていく。	1. 人事政策について説明することができる 2. 人事政策の必要性を述べることができる 3. 人事政策に有効な方策(SD、ジョブ・ディスクリプション等)を説明することができる					

科目名				講師	時間	開講年度			研修の目的 (この受講科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (この授業科目の学習後に到達すべき目標を、ゼミ生を主語にして、行為動詞を使用して箇条書きに記入)
						1年目	2年目	隔年		
講義	人材育成分野	17	SD論	山崎	3			○	リーダーに必要な資質の一つとして、職場(現場)を理解することがある。SD論を通して、職場(現場)の業務分析について理解する。	1. 大学における業務の意義・位置づけについて述べることができる 2. 職場における業務について情報を収集し、業務内容を明確化することができる 3. 職場における必要な能力の分析をすることができる
		18	リーダーシップ論Ⅰ	丸山	2	○			自分のリーダーシップ・スタイルを分析し、部下を成長させながら組織が成果を上げるための方策について学ぶ。	1. リーダーシップの定義から、期待されている役割を説明することができる 2. リーダーのメンバーへの影響力について説明することができる 3. リーダーとして持つべき意識／取るべき行動を説明することができる
		19	リーダーシップ論Ⅱ	丸山	2		○		リーダーとフォロワーが互いに良い影響を与え合い、その相乗効果によってチーム力が高まることを学ぶ。	1. リーダーとフォロワーの両者の立場を理解し、お互いの役割を説明することができる 2. 目標を達成できるチーム作りの方法を説明することができる
		20	大学職員論	清水	3			○	「事務職員」から「大学職員」への発展の背景を振り返り、そのプロフェッショナル性について考える。	1. これからの大学職員に求められる能力を説明することができる 2. 業務改革の進め方について説明することができる
		21	メンター入門	清水	2	○			メンターとなる職員(上司)が、メンタリングの必要性について理解する。	1. メンタリングについて説明することができる 2. メンターの役割を説明することができる 3. スタッフ・ポートフォリオ作成時のメンターの関わり方を説明することができる
		22	人材育成ビジョン	吉田	3			○	高等教育機関における職員人材育成ビジョンの構築事例を知るとともに、その作成を支援するための手法を学ぶ。	1. 職員人材育成ビジョンについて説明することができる 2. 職員人材育成ビジョンの必要性を説明することができる 3. 職員人材育成ビジョンの作成を支援することができる
プロジェクト		23	プロジェクト・マネジメント	丸山	2	○			プロジェクトマネジメントの手法を理解し、プロジェクトを成功に導くツールとして活用することを目指す。	1. プロジェクト、プロジェクトマネジメントの特性について説明することができる 2. プロジェクトを成功に導くためのプロセスと、実践のための手法を説明することができる
		24	プロジェクト実践Ⅰ (課題設定プレゼンテーション)	全講師	8.5	○	○		プロジェクトの企画立案、進捗管理、リスク管理などを含めてプロジェクトの課題設定につなげる。	1. プロジェクトの課題設定について、他者に説明することができる 2. 他者のプレゼンテーションに対しフィードバックを行うことができる
		25	プロジェクト実践Ⅱ (進捗プレゼンテーション)	全講師	4	○	○		プロジェクトの進捗状況を発表することにより、振り返りを行うとともに、進捗を妨げている課題(各種トラブル)の解決策を見出せるようになる。	1. プロジェクトの計画と現状の差異を説明することができる 2. 他者のプレゼンテーションに対しフィードバックを行うことができる 3. 他者からのフィードバックを精査し、問題解決の方策を策定することができる
		26	プロジェクト実践Ⅲ (修了プレゼンテーション)	全講師	8	○	○		プロジェクトの成果と課題の考察結果を説明する。	1. プロジェクトの企画・管理の手法を説明することができる 2. プロジェクトの意義や重要性について、説明することができる 3. プロジェクトの内容についての質疑応答をすることができる
		27	プロジェクト実践Ⅳ (ゼミ指導)	全講師	11	○	○		プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの中で行われたフィードバックを省察すると共にプロジェクト遂行を通じて、課題発見能力、課題解決能力、構想力、表現力を養う。	1. 自大学の構成員を巻き込んだプロジェクトを遂行することができる 2. プロジェクトを実施し、レポートにまとめることができる
SD実践・演習		28	インストラクション・スキルⅠ (プレゼンテーションスキル)	吉田	5.5	○	○		プレゼンテーション、研修講師等に必要な知識・技能・態度について学ぶ。	1. 与えられた制約の中で、意図・主旨・要点を明確に伝えることができる 2. 他者のプレゼンテーションを観察しフィードバックを行うことができる
		29	インストラクション・スキルⅡ (プログラム設計／シラバス作成)	丸山	3.5	○	○		SDプログラムにおける、シラバスの定義、プログラム概要、到達目標の設定、研修内容等について理解する。	1. シラバスの定義を説明することができる 2. 到達目標を設定することができる 3. 効果的な学習を促すシラバスをデザインすることができる 4. プログラム概要を作成することができる
		30	SD実践Ⅰ (プログラム構築)	全講師	15.5	○	○		担当するプログラムにおける、プログラム概要、到達目標の設定、研修内容等について理解する。	1. SPOD-SD講師となることができる 2. 受講対象者のニーズを調査することができる 3. プログラムのシラバスについて、同期生と協働して作成することができる
		31	SD実践Ⅱ (プログラム実践)	全講師	8.5	○	○		担当するプログラムの事前講義を行い、課題の解決策を見いだせるようになる。	1. プログラムの問題点を指摘することができる 2. プログラムを改善するためのフィードバックができる
		32	SD実践Ⅲ (プログラム振り返り)	全講師	2	○	○		振り返りを通じ、次期生に対し適切な助言を行う。	1. 次期生に対し、適切な助言を行うことができる
		33	メンタリング実践Ⅰ	清水	3	○	○		スタッフ・ポートフォリオ作成に資するメンタリングを実践する。	1. スタッフ・ポートフォリオ作成時のメンターの関わり方を説明できる 2. スタッフ・ポートフォリオに記された内容についてメンタリングを行うことができる 3. スタッフ・ポートフォリオ作成の援助をすることができる
		34	メンタリング実践Ⅱ	清水	4	○	○		メンタリング実践Ⅰで作成したスタッフ・ポートフォリオのブラッシュアップに向けたメンタリングを実践する。	1. スタッフ・ポートフォリオ作成時のメンターの関わり方を説明できる 2. スタッフ・ポートフォリオに記された内容についてメンタリングを行うことができる 3. スタッフ・ポートフォリオ作成の援助をすることができる

次世代リーダー養成ゼミナール受講に係る研修料について

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という。）は、四国地区にある32の加盟校からの会費によって運営されているため、SPOD加盟校以外の職員が次世代リーダー養成ゼミナールを受講する場合には、下記のとおり研修料を徴収させていただきます。

記

1. 1年度あたりの研修料

平成29年度

18,000円（2泊3日のプログラム）×3回＝54,000円

12,000円（1泊2日のプログラム）×1回＝12,000円

合計 66,000円

平成30年度（予定）

18,000円（2泊3日のプログラム）×3回＝54,000円

12,000円（1泊2日のプログラム）×1回＝12,000円

合計 66,000円

2. 研修料の支払い方法

受講する年度毎に、1年分の研修料を5月末日（予定）までに前納していただきます。

なお、納入方法等の詳細については、本ゼミナールの受講決定時にお知らせします。

【研修料に関するお問い合わせ先】

SPOD事務局（愛媛大学教育学生支援部教育企画課）

TEL：089-927-9154

E-mail：spod@stu.ehime-u.ac.jp